



17 猪名川源流部

保全 水系内で、もっとも底生動物の確認種数が多い。

課題 魚道の無い横断工作物が高密度で存在する。

13 猪名川上流部 (一庫大路次川合流～清水付近)

課題 勾配が緩やかで比高の高い堰が多いため、上流部としては、堰湛水域の面積比率が高い。ブラックバスが分布を広げている。

11 野尻川

保全 県管理区間のなかでは、水系内でもっとも魚類の確認種数が多い。

09 猪名川中流部

保全 山間を流れ、大きな淵が残っており、河川形態はおおむね良好な区間。横断工作物がほとんど無い。河岸には岩場が随所にみられ、水辺に自然林と二次林が接する区間が比較的多い。兩岸には、エドヒガンが群生しており、美しい景観を作り出す。



猪名川

群生するエドヒガン

08 芋生川

課題 魚道の無い横断工作物が高い密度で分布する。勾配が急で、とくに比高が高いものが集中する。

04 猪名川

保全 自然性の高い礫原がわずかながら残存している。猪名川下流部では、唯一自然性の高い礫河原であり、この場所でカワラナデシコの生育が確認されている。



カワラナデシコ

02 猪名川・藻川

保全 猪名川・藻川の中でも多様な低層湿原が成立し、エコトーン*2としての機能が充実している区間である。特に、園田橋の付近の藻川低水敷には、面積は小さいながら、多様な自然植生が成立しており、美しい河川景観を示している。



藻川

01 藻川・猪名川合流部

保全 藻川の最下流部から猪名川の合流部には、ごくわずかながら、干潟とそこに成立するヨシ群落が残されている。

課題 ヨシ群落の現状維持にとどまらず、過去に失われた部分については、再生・拡大していくことも必要である。



藻川

16 猪名川上流部

保全 大きな蛇行が残り、河川形態が比較的良好な区間(ただし、湛水域面積は多い)。水辺に自然林と二次林が接する区間が比較的多い。

課題 過去の記録と比べると、トンボの生息域が狭くなっている可能性がある。



猪名川

15 槻並川

課題 横断工作物が多く、流量が減少している。

14 阿古谷川

課題 低水護岸率が顕著に高い。上流部では横断工作物が顕著に多く、その密度は水系でもっとも高い。流水が顕著に少ない。中流部では、底生動物の種数が他河川に比べて少ない。



阿古谷川

12 原川

課題 コンクリート三面張りの区間で、横断工作物の密度が非常に高い。夏季最高水温は、水系内でもっとも高い(35℃以上)。生物にとって非常に過酷な場所である。



原川

10 一庫大路次川

課題 河床のアーマー化*1が進行している。聞取によると、河床に泥がたまり、アユの餌となる水垢の育ちが悪い。ダムから一時的に低温の放流水が流される。

07 塩川

課題 水質が汚濁傾向にあるようで、電気伝導度の値が高い。



06 猪名川

この場所より、上流域では外来植生の面積が一気に低くなる。また、ネコヤナギ群集の分布が目立つ区間となる。

05 猪名川中流部

保全 ワンド(人工ワンドを含む)が散在しており、緩流域にすむ魚類が確認されている。



猪名川の人工ワンド

課題 人工改変地(公園・グラウンド)の面積が広い。

03 猪名川自然林

保全 かつての猪名川の旧河道沿いにエノキを主体とする河畔林が残されている。猪名川の自然植生を知る上でも重要なものである。



*1 「アーマー化」…河床に堆積していた微細な砂やシルトなどが洗い流され、大きな礫や石のみが残る固着現象
*2 「エコトーン」…陸域と水域の境界となる水際のように異なる環境が連続している場所(=移行帯)

全体区分

- 各調査結果を総合的に判断・整理したゾーニング

魚類・底生動物の現地調査地点	横断工作物の確認位置(水面比高0.2m以上)
● 調査地点	○ 魚道あり
▽ 近年の確認上限	○ 魚道なし
▽ 過去の確認上限	● 間取調査による名前のある淵の現状
● ツルヨシ・ネコヤナギ型	● 無くなった
● 移行帯	● 浅くなった / 狭くなった
● オギー・ツルヨシ型	● 変わらない
● 感潮域	● 不明
	予察調査による河川環境の記録
	● 課題が見つかった箇所